

7月 3日（金）

おはようございます。

高校生は明日から試験、中学校は試験中ですが、朝礼体型に並ぶのに先生に大きな声で怒られないと静かにできないというのはいけませんね。毎日、8時35分になったら朝礼の準備がきちんとできるように、自分で切り替える習慣をつけなさい。

資生堂の名誉会長をされている、福原義春（ふくはらよしはる）という方のお話をします。この人はたいへんな読書家で、読書するというのは、ものをいろいろ判断するうえですごく大切だとおっしゃいます。福原さんは資生堂の経営者ですから、ほかの経営者が様々に経営判断をしているその判断のセンスには詳しいわけでしょうが、それだけでなくその経営者がよく本を読む人であるかどうかまで分かるらしいのです。つまり、人間の判断の仕方や処置の仕方に、読書家であるかどうかが出ているということなのですね。

そこで今日は、諸君は古典を読まなくてはいけないという話です。古典というのは、時代を超えてのベストセラーと言ってよいでしょう。たとえばカエサル『ガリア戦記』、二千年経った今でも読まれている。司馬遷の『史記』とかもそうです。福原さんは司馬遷の史記を自分の座右の書にされているそうですが、そういう意味で二千年の時間を経た今でも、いわばベストセラーなのですね。たとえば4年前のベストセラーの本の名前を言ってくださいと言われてもすぐに言えません。そのときは流行ったけれども、もう今では流行っていない。ところが、二千年にわたり時代を超えてベストセラーであり続けているというのは、それぞれの時代の背景が変わっても、その中でつねに今を生きている人間の心に資する可能性を秘めた書である証なのです。つまり、時代を超えてひとびとの心に資する、いわばプラスになりうる知恵を含んであり続けたということですから、そういう栄養をきっちり学びとって、現代における経営判断をするのと、そうでないのとでは、何かが大きく違ってくるのだと思います。

清風では、諸君に正しい判断力と鋭い断行力を養いなさいと言います。ニューヨークタイムスの記事で、2011年の研究だったと思いますが、いまから4年ぐらい前の記事で、今の高校1年生がまだ小学生であった時に発表された記事に、小学生の時点で、今現在において存在していない職業に将来就職する可能性は、66パーセントだと書いてありました。要するに、全体の三分の二が就職するときには違う職業になっていると書いてあったのです。今もある仕事に就く人は三分の一、残りの三分の二は、今現在存在していない仕事に就かなくてはならないとね。それくらい時代の変化が激しいわけで、そういう中で、諸君は正しい選択をしていかななくてはならないのです。正しい判断力と鋭い断行力とは言うものの、短い人生経験のなかで正しい判断をす

るというのはなかなか難しいものです。

しかし、そういう難しい場面で、個人の成した判断、たとえばある経営者が人生のぎりぎりのところでどういう判断をしたかということ学ぶことは、いざ自分がそういう立場に立たされたときに大いにプラスになるものであると、立花隆も書いています。

諸君のうち三分の二の人が今存在しない職業に就かなくてはならないという困難な時代がきていて、諸君はそういう意味で未知の経験をしなくてはならないわけですが、そのときに君たちのたいへん短い人生経験で判断するというのは誰でも心細いですから、そのなかで正しい判断をするためには、たくさんの先人の知恵を借りて、温故知新ではありませんが、たくさんの先人の知恵を学んで、それを自分の判断の材料にしていくということが必要だと思います。そういう意味で、正しい判断力と鋭い断行力を発揮するためにも、読書というのは非常に大切なのです。

清風には他校もうらやむ読書論文指導部があるのですから、この夏休みも課題が出ていると思いますが、課題をざっといい加減に写したりせず、面倒くさいからやめようとか思わないでしっかり本を読みしっかり文章を書いて下さい。自分の書いた文章をきちんと添削してもらうことは大学院に行ってもありません。今の清風でしか添削してもらうことはないのです。自分の文章をきっちり添削してもらうことは大変ありがたいことなのです。だから、そのチャンスを失うことのないようにしなさい。課題の図書や、小論文の課題に対して積極的に取り組み、思うことをきちんとした文章にして、読書論文指導部の先生方にしっかり添削してもらうように心がけなさい。また、その添削結果をしっかり復習して下さい。こういう作業ができるかどうかで、力のつき方はまったく変わってくると思います。

夏休み前で、まとまった時間があるわけですから、たくさん本を読んで欲しいし、読書論文指導部の課題にもきちんと向き合って自分の文章力を磨いて下さい。今朝の話はこれで終わります。

(学校長)